

青春が詰まった高校生活

76期 中 島 瑞 樹

草案に先立ちまして、我が母校、能代高等学校が創立九十周年を迎えられましたことを、心から喜び、お祝い申し上げます。本当におめでとうございます。

私が在籍しておりました高校3年時に大変運良く創立八十周年を迎えることができました。普段では、経験することのできない様々な記念行事に参加しながら、改めて能代高校の素晴らしい伝統とスケールの大きさに感動したことを覚えております。あれから十年の月日が過ぎたことは、正に「光陰矢のごとし」であります。

脈々と流れる母校の歴史の中、教え導いてくださる先生方に見守られ、たくさんの友と勉学に励むことができました。私は、特に生徒会活動を通して、多くの学友から貴重な意見を聞くことにより、様々なことを感じ、考え、行動し、少しずつではありましたが、自立していったように思います。

今でもよく思い出すのが、創立八十周年記念事業として行われた、強豪校を招いての野球招待試合です。在校生が丸となって応援し、強い団結力と母校への深い愛着を感じ、胸が熱くなりました。

また、「DO YOU POP?」のテーマのもと、796人の仲間とともににはじけた能高祭です。計画から準備段階、そして当日と多忙な日々が続き、帰宅時刻も忘れて取り組みました。様々な課題もありましたが、それを苦とすることなく、仲間とともに最後まで全力でやりぬきました。充実感や満足感、感謝の気持ちなどいっぱいになりました。熱い青春がぎゅっと詰まった高校生活でした。

能代高校を卒業して10年。常に母校の発展に胸をときめかせ、在校生の活躍に大きな拍手を送っております。最後になりましたが、これからも能高生が「松陵健児」の精神を胸に刻み、新たな歴史を築き上げながら、さらなる飛躍を目指し、日々精進していつてほしいと思います。母校能代高校のますますの御発展を心から祈念いたします。

能代高校の将来を考える

78期 大 山 周 悟

能代高校を卒業して7年が過ぎ、社会人となった今、仕事やプライベートで先輩方にお会いする機会が増えた。多くの分野で活躍されており、尊敬の念を抱くとともに誇りに思う。先輩方の話を伺うと、能代高校で過ごし

た3年間がその後の人生にいかに大きな影響を与えたのかが感じ取れるものがあった。私自身、友人たちや当時の井上校長先生をはじめとする素晴らしい先生方と出会い、生徒会長として学校運営に携われたことは本当に貴重な経験であり、これからの人生にも間違いなく活かすことのできるものである。

生徒会活動のなかで最も思い出深いものがある。構想から実施まで関わり、今も受け継がれている、「Will Project」の立ち上げである。当時、能代山本地域の高校再編が検討されていたが、能代高校は単独で存続することとなった。それは同時に能代高校が地域に対していかに重要な役割を求められているのかということでもあった。生徒会長であった私も能高生としてできることは何か模索していた。そうした時に、井上校長先生から「大きな夢と高い志を持てるような取り組みをしていこう」と声掛けがあった。私たち生徒と熱い想いを持った先生が時間をかけ、目指すべき方向性を合わせていき、「Will Project」と呼ばれる能代高校の将来構想を創りあげた。その熱い想いが伝わったのか、その年の国公立大合格者は100名を超え、進学率や就職率は非常に高いものとなった。

卒業後も「Will Project」は継続され、今では中期ビジョンにも明記されるようになった。在学中にそのような活動の一端を担うこ

とができたのは誇りである。

それでは現在の能代高校はどうだろうか。もちろん能代高校への入学がゴールではないし、進学することが偉いわけでもない。しかし、能代高校は能代山本地域、秋田県、日本そして世界で活躍できる人材を育成する場であり、地域を発展させていく拠点とならなければならぬ。「Will Project」発足時の熱い想いを持った先生方も少なくなり、その意義自体、生徒、そして能代高校を目指す子どもたちに伝わっていないように感じる。

今こそ、生徒と先生が一体となり、能代高校があるべき姿、目指すべき姿を考え、100年、200年と発展していく礎を築きあげてほしいと思う。

私自身、どのような形で関われるかわからないが、能代高校発展のため、取り組んでいきたい。

二万人の松陵健児

81期 鈴木 優生

創立九十周年おめでとうございます。この90年とはどれほどの長さなのか。NHKのラジオ放送が開始され、普通選挙法が公布されたのが90年前だそうです。現代日本の幕開け

と共に、能代高校の歴史はスタートしたといえるでしょう。その90年の歴史の中で、私たちが能代高校で過ごした時間はたったの3年間です。それでも同窓生ひとりひとりに、生涯忘れない思い出があるのではないのでしょうか。

「30人いれば誰かの役に立つことができ」。「一字一句正確に覚えているわけではありません。でも、私が高校時代を振り返って初めに思い出したのは、担任の先生がお話になったこの言葉でした。高校で同じクラスになった仲間たちそれぞれが社会での役割を果たすことで、困っている人の役に立てる。そのような趣旨のお言葉でした。私たちの母校はこれまでに2万人を超える人材を輩出し、直近の10年間では2416人が卒業しています。これだけの人数がいれば何ができるのだろうか？

私が進学先を決めたのは高校3年生の12月でした。理由はただひとつ、「英語が話せる大人になりたい」。22歳になった今、流暢とまではいかないものの、英語を使って海外で生活できるまでになりました。皆さんの中にも、高校時代の決断によって人生の方向が定まり、スキルを身につけた人はたくさんいらっしゃるでしょう。私たちそれぞれの持つ力を繋ぐことができれば、世の中を変えられるかもしれませんね。

最近よく耳にする言葉に地方創生があります。ある研究によれば、2040年に秋田県の人口は70万人、能代市の人口は3万人台になるそうです。決して明るいニュースではありません。私たち能代高校の卒業生が、地域のリーダーとして力を合わせ、より良い未来を創造していかなければならないと思います。

かぞえの90歳は卒寿と呼ばれます。人間で言えば引退の時期ですが、能代高校の歴史はまだまだ続きます。90年の歴史のなかで卒業された優秀な先輩方とこれから社会へ出る才能あふれる後輩たちに負けないように、私も精進していきたいです。母校能代高校の思い出を胸に、奮へ松陵我が健児。

高校時代の振り返りと

未来へ向けて

84期 安部 宇明

長かった夏も終わり、本格的に秋が訪れて来ておりますが、皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、私たち第84期生が能代高校を卒業してからはや一年半が経過しました。新生活2年目も折り返しとなり、慣れから気持ちの緩



能高祭後夜祭

みも生まれてくるでしょうが、全国に散った仲間たちは仕事に学業にと日々精進していることと思います。

思えば、私たちは不運に見舞われることが多い学年でした。高校3年時の体育祭は悪天候のため屋内競技のみの開催となり、十里強歩は台風の接近により中止になってしまいました。前者については心残りこそありますが、校訓「至誠力行」の下、白熱した戦いが繰り広げられ、例年通りもしくはそれ以上の盛り上がりでした。後者についても、世の中は自分たちの思い通りに進むことばかりでは

ないということを学ぶ機会になったのではないかと思います。満足に行うことのできなかったこれら二つの行事とは対照的に、能高祭は雲一つない晴天に恵まれ大成功を収めました。例年より多くの方々に足を運んでいただくことができた上、マイムマイムの踊りの輪は過去最大級でした。

ここまで行事を通して思い出を振り返って来ましたが、これらの行事を開くことができたのは地域の皆様、そして先生方のご協力のお陰です。先生方には学業や部活といった行事以外の面でも大変お世話になりましたし、何より高校に通うことができたのは保護者の存在があったからです。今振り返ってみると、実にたくさんの方々を支えられて高校生活を送っていたのだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。また、私たち第84期生が入学したのは2011年、未曾有の被害をもたらした東日本大震災が起こった年です。多くの人が血縁者を亡くし仲間と離ればなれになる中、私たちのほぼ全員が特に大きな被害を受けることもなく高校生になりました。震災関連のテレビ番組や新聞記事を見るにつけ、これがいかに幸せなことであるかを痛感しています。自分たちの幸運をかみしめながら、これまで受けた恩恵を今度は私たちが社会に還元していく番です。進む道は人それぞれですが、至誠力行の精神を胸に、自分が選んだ人

生の中で社会に貢献し、そして「ゆとり世代」というレッテルを跳ね返す程の活躍を見せていきましょう。奮え松陵健児!!

一人の先輩として

85期 珍 田 悠 馬

能代高校創立九十周年おめでとうございます。私が能代高校を卒業してからは、まだ少ししか経っていませんが、すでに能代高校とかつての級友にはなつかしさを感じています。今、高校時代をふりかえってみると、人生の中で大切となる多くのことを学んでいたように思われます。

私は生徒会長として働くうちに人間性が大きく変わったように思います。それまではあまり人前に立つこともありませんでしたが、全校生徒を中心とする多くの人の前に立つことにより、社交的になることができました。生徒会長としての仕事には一つ一つの責任が重く、重圧の中で動かなければいけませんでした。今はその重圧はありませんが、あまりの開放感に少しさみしい思いがあります。最も責任が重いと感じたのは、3年次の能高祭でした。準備から各部門長の話し合い、様々な企画について計画を立てていくにつれ、た

くさんの問題が発生しました。生徒会長として生徒の意見を取り入れつつ、円滑に作業を進めていくのは非常にづらい仕事でした。しかし、能高祭が無事終わると今までの責任が全て達成感に変わり、忘れることのできない思い出となりました。現在の大学生活と比べると、高校生の様々な規則に縛られ、自由があまりなかったように思われます。不自由の中での生活というのは一見、面白くないように感じるかもしれませんが、それは間違いです。不自由だからこそ仲間と近付き、自分の進むべき道を確立することができます。能代高校生は学業にも部活動にも多忙を極めると思います。時には苦しみを感じることもあると思いますが、周りには多くの人がいます。私は生徒会長としてつらくなったとき、本当に多くの人に支えられました。友人や先生に助けられ、自分の仕事を全うすることができたのだと思います。

能代高校の校訓である「至誠力行」という言葉の意味を理解しているでしょうか。90年間、至誠力行を積み重ねてきた先輩方は、きっと今でもその精神をもっているはずです。私は高校時代、あまりそのことについては意識していませんでした。決まりきった毎日をただなんとなく過ごしていました。それはもったいないことです。今、能代高校で学びを重ねる後輩達には、校訓に込められた意味

について真剣に考えて欲しいと思います。不自由の中にある自由とは今にしかないものです。その自由をどう使っていくのかが自分の人生を決める大きな要素となります。一見、不自由でつまらない今かもしれませんが、見わたしてみるとたくさん自由が転がっているはずです。今までの高校生活を思い出し、一つアドバイスをします。「至誠力行」を決して忘れるなということです。一人ひとりが能高生であるという自覚をもてば、能代高校は大きく変わります。元生徒会長として、また、一人の先輩として皆様の至誠力行と能代高校の更なる発展を祈っています。

九十周年を迎えて

現生徒会長 今 井 雄太郎

九十周年という節目の年。そんな記念すべき年に、生徒を代表して自分の文章を残せることを、大変光栄に思います。

90年という長い年月を経ても尚、能代高校の伝統と気概は、この学校で繰り返される数々の出会いを通して、先輩から後輩へと確かに受け継がれています。

今の能代高校生を一言で表すのは難しいですが、先々代の生徒会長の、「最高にバカで

頭の良い高校生」という表現が、一番当を得ているように思います。高校生になった今でも、休み時間には本気でふざけ合っていて、どこかの教室から必ず笑い声がこぼれているのが、今の能代高校です。そんな仲間たちといると、鬱々とした気分だって吹き飛んでしまします。心を許しきっている場所で過ごす時間は、私たちにとってかけがえのない時間です。

こうして自分をさらけ出し、日々を楽しく過ごしている一方で、勉強や部活動、学校行事にも全力で取り組むのが今の能代高校生です。いったん授業が始まると聞こえてくるのは先生の説明、それから、チョークと黒板が擦れる音のみで、誰もが第一志望への静かな覚悟、闘争心を持ち合わせて、日々の勉強に励んでいます。また、放課後になると、吹奏楽部が練習する音をBGMに、どの部活も目標に向かい、熱心に活動しています。そして、体育祭や能高祭では、学校全体が一丸となつて、互いに協調し合いながら、最高に熱い盛り上がりを見せます。

今私たちが能代高校生らしく思い思いに生活できるのは、生意気な私たちを導いてくださる先生、90年間能代高校の良き伝統を紡いでくださったOB、OGの皆さん、そして、90年もの間私たちを温かく見守ってくださっている地域の方々のおかげです。これから

能代高校生としての矜持を忘れず、日々至誠力行に努める私たちの活躍に、期待してください。

応援団長として

現応援団長 佐藤 翔里

今年、能代高校は創立九十周年を迎えました。この節目の年に、能代高校に在籍し、応援団長を務めることができたことを、大変光栄に思います。

私が能代高校に入学して、はや3年目になります。その日々の中で忘れられない思い出をたくさん作ることができました。お互いを知り、友情を深め合った宿泊研修。全力で腕を競い合った校内球技大会。アイデアを存分に発揮し合った能高祭。ひたすらゴールを目指して走り抜いた十里強歩。まだまだたくさんありますが、その一つ一つが大切な思い出です。そして今、様々な経験を経て、伝統ある能代高校応援団の団長を務めることができていることを大変誇りに思っています。

2年前、私が応援団に入部し、そして自分がこれから応援団を率いて行くのだという話が部内で上がった時、最初は「自分にその大役が務まるのだろうか」と、とても不安な気



応援団

持ちになりました。しかし、OBの方々も含めた先輩方や先生方が、熱心に指導して下さいました。そのおかげで、今の自分があります。そして、先輩方との交流や全県の応援団が集うエールサミットでの他校との交流で、伝統というものの大切さも強く感じました。今と昔とでは応援団の形や在り方も変わってきたようですが、「頑張っている人の力になりたい」という精神は変わっていないと思います。

私は昔のことはよく分かりませんが、能代

高校も90年という歴史を経て、何かを変えてきたのかも知れません。しかし、能代高校が校訓として掲げる「至誠力行」は変わらずに受け継がれていると思います。

私は、これから能代高校を担っていく後輩たちにも「至誠力行」の精神をしっかりと受け継いでいってほしいと思います。何かを変えることがあっても、この精神は忘れないでほしいと思います。

これからも「至誠力行」の精神の下、能代高校生がさらに活躍し、躍進してくれることを期待しています。

九十年の中の三年間

3年 小野 彰斗

在校生として執筆させて頂くことを光栄に感じている。私が、能代高校に入学したと思ったのは、文武両道を校是とし、その通り部活動と進学において結果を残し、数々の著名人を輩出している伝統校であったからだ。入学当初は先輩方の持つ雰囲気圧倒された。熱意に溢れた瞳と誇りと風格をまとった姿、その姿は、あまりにも大きな存在に見えた。物凄い量の課題、今まで感じたこともないほどの強い眠気との闘いなど辛いことば

かりだったが、仲間と共になんとかやってきた。これだけの事を先輩方はやったのだと思うと、やはりすごいと感じた。そして同時に自分にも誇りを持てるようになった。

能代高校の校訓は「至誠力行」である。真心を持って努力するという意味だ。ある先生が言っていた。「この学校を90年間見守ってきたのは『至誠力行』という言葉だ。」と。きつと今までの能代高校生も、私が入学時に見た先輩方も至誠力行をしていたに違いない。それが無意識であつたとしても、そのように取り組んでいたのだろう。その結果、雰囲気として表れ、私がそれを感じ取つたのだろう。私も伝統を引き継げるように真摯に取り組みを続けていこうと思う。能代高校の先生方もこの校訓を体現している。どんな事に対しても真摯に対応する先生方が、この学校を支えている。また、この学校が伝統校として存在することを大きく支えているのは、他でもない、地域の方々、OB、OGの、今までの取り組みと、能代高校に対する期待である。部活動においても、日常の生活においても、この温かい期待が能代高校生を後押しし、前進させていると感じている。

私が能代高校にいられるのは、校史からしたらたつた3年かもしれない。しかし、私が今までに学んだことは大きな財産であるし、誇りである。この誇りを胸にこれからも強く

歩んでいこうと思う。そして、自分が今まで後押しされていたように、能代高校生を後押しする力に少しでもなれればと思っている。能代高校がこれからも活躍することを期待する。

今の至誠がいつの日か

3年 安藤 賀子

本校は今年で創立九十周年を迎えました。が、そのテーマの一部に「我らの至誠よ未来へ届け」という言葉があります。ご存じの通り、これは本校の校訓である「至誠力行」から引用しました。私達の今の努力が将来実を結び、進路実現や今後の能代高校の発展につながってほしいという思いが込められています。

もう一つ、本校で掲げられているものに「文武両道」という校是があります。実際、本校では多くの人が学業と並行して部活動に励んでいます。私もその一人で、陸上競技部に所属していました。活動を続けるうちに中学校の時以上に陸上競技に熱中するようになり、個性豊かな部員たちと過ごす時間がとても楽しくなりました。高校での思い出を聞かれたらほとんどが部活動の話題になってしま

うほど多くの時間を過ごしました。もちろん、嫌なことたくさんありました。4×400メートルリレーは慣れるまで本当に恐怖でした。人間関係でもしよっちゅう悩みました。時間不足や疲れから、勉強が思うようにできずイライラしたこともありました。それでも、先輩たちも皆同じ思いをしてきたのだから私達も負けていられないと思って頑張りました。この二年余りで根性は確実に鍛えられたと思っています。

時間の流れは本当に速く、ついこの間高校



陸上競技部リレー

に入学したと思ったらもう3年生になっていました。何度も「高校生活はあっという間だよ」と聞かされて分かっていったつもりでしたが、今改めて実感しています。でも、この3年間はあっという間だからこそ、その間の経験は濃く、一生残るものになると思います。部活動をしている人も、しないと決めた人も、与えられた時間は皆同じです。勉強も部活動も学校の行事も、今しかできないことがたくさんありますから、精一杯楽しんで、苦しまししょう。これからも能代高校生が至誠力行し、その至誠が将来に活かせることを願っています。

能代高校での日々

2年 菊谷 朋華

能代高校は頭が良くないと入れない——。私は小さい頃からそう聞いていて、能代高校に憧れを抱いていました。いつしか「憧れ」は「目標」に変わり、私は一生懸命勉強に取り組みました。そして無事能代高校に入学できてとても嬉しかったです。

入学当初は中学校の頃よりも勉強が難しく進むのも早いので、授業についていけないか不安でした。しかし毎日予習や復習をして、な



十里強歩

んとか高校の勉強のリズムに慣れることができました。

そうして第1回考査という壁を乗り越えると、体育大会や能高祭など楽しい学校行事が続きました。とくに能高祭は、HRデコや学級ごとに工夫した新聞・ムービー、さらにバンド演奏やのど自慢のように様々な内容が詰め込まれていて、とても盛り上がりました。

夏休みが終わり9月に入ると、能代高校の伝統行事である十里強歩がありました。入学前から噂には聞いていましたが、想像以上に

大変でした。友達と励まし合いながら必死に歩きつづけ、学校にたどり着いたときには達成感を味わいました。

あっという間に月日は流れ、私は2年生になりました。能代高校創立九十周年という記念すべき年を過ごすことができることの喜びや、改めて能代高校の偉大さを感じています。また、90年もの歴史がある能代高校の生徒であることを心から誇りに思います。これから先もこの能代高校の伝統を引き継がれ、且つ新たな歴史が刻まれていってほしいと思います。

私が能代高校で過ごしている時間は、90年と比べたらほんのわずかな時間です。それでも、私にとっては毎日が楽しく充実しています。幸せな時間です。これからも校訓「至誠力行」のもと、何事にも精一杯取り組み、思い出をたくさん作りたいです。そして能代高校とともに私自身も大きく成長していきたいと思っています。

増加関数のような展望

2年 藤本 魁希

私は1年間、能代高校生として過ごしてきました。いろんな人と出会うことができ、た

くさんの想い出ができました。その中から、二つ、ここに書き留めておきます。

一つ目は、やはり文化祭です。高校の文化祭はどのようなものか、私は想像ができませんでした。前夜祭、クラス対抗のど自慢、Mr・Ms能高発表など、先輩たちがとても盛り上げてくれて、今でも思い出すと、笑顔になるくらい楽しかったです。当日は、たくさんの方が集まり、クラスではHRデコで盛り上がりました。高校の文化祭は、これほどまでにおもしろいのか、そう感じさせられた2日間になりました。

二つ目は、1年間を通しての勉強に対する自分の意識が変わったことと、ある人に出会ったことです。入学してから、前期課程が終了するまで、私は勉強というものを他の人と比べ全くやっていませんでした。そして、後期課程が始まる時、良いタイミングだと思ひ、勉強をするようになりました。私がそのような心情のとき、ある人とよく話すようになりしました。その人は、数学がとても好きな人で、話していくうちに私も数学が好きになり、さらに勉強したいという気持ちが強くなりました。その人への感謝の気持ちをここに記しておきます。

さて、ここからはこれからの能代高校への期待を書き留めていきたいと思っています。

今年は能代高校九十周年という素晴らしい

年です。90年という年月はとても長いもので、それだけ能代高校には、伝統と歴史があると言えます。しかし、私はまだ能代高校には発展の余地があると思います。部活動では、それぞれの部が、全国大会への出場。そして能代高校の特徴とも言える学業面では、難関大へ多数の人が進学をする。前半の文章でも述べた通り、この学校は、勉強に対する何かを変化させてくれます。そのチャンスに出会うかは人それぞれですが、必ず機会はおとずれると思います。

百周年、百十周年と、能代高校の発展を期待します。増加関数のように。

能高生であることの

自覚と誇り

1年 東海林 慶一

秋田県立能代高等学校。中学生の頃の僕にとって、その学校は憧れの存在でありました。能代高校に行きたい、という一心で勉強に励み、そして今、その憧れの学校で、待ち望んでいた高校生活を送っています。学校には、気軽に話しかけてくださる温かい先輩たち、手厚い指導をしてくださる先生方、そして、一緒に学び競いあい、笑いあうことができる

仲間たちがいます。

さて、本題に入りますが、この原稿を書いているときに総合学習の職業研究で、夢と志について考えるという授業をやりました。その中で、実際に夢を抱き、高い志を持ちながら活躍している方々の話を目にしました。その中の「世界に私を待っている人がいる」という言葉がとても印象深く残っています。私はこの言葉を「社会が私たちを求めている。」と解釈します。ただ、どんな人材でもよいというわけではなく、やはり十分な学力と社会性、加えてコミュニケーション能力は備えてなければなりません。私は、これらの能力をこの能代高校で培っていきたくと考えています。

今年で創立九十周年を迎える能代高校では、数々の行事が企画されており、その一つから、能高生としての自覚や誇りといったようなものが芽生えてくるのでしょう。それらを糧として私たち1年生は、日々の活動に全力で取り組んでいきたいと思っています。そして2年後、私たちが3年生になった時には、私たちが下級生に目標とされる能高生として、先頭に立って後輩たちを引っ張り、能代高校の伝統をしっかりと引き継いでいきます。その時、後輩たちに「能代高校ってすごいなあ」とか「俺たちもがんばらないか」と思われる3年生に私はなりたいです。



新入生宿泊研修

最後になりますが、私はこの記念すべき年にこんな素敵な学校に入学できてとても幸せです。地域の方々、OB・OGの方々、そして先輩たちや先生方、どうか私たち1年生を温かく見守り、期待してください。その期待に応えられるよう1年生一同全力でがんばります。

能高生として

私ができること

1年 池 条 みちる

創立九十周年を迎える節目の年に、私は能代高校へ入学しました。この歴史ある高校にふさわしい生徒であるために、そして卒業してから也能代高校生であったことに誇りを持てるように、私は校是「文武両道」のもと次の二つのことに励んで3年間を過ごしたいと思います。

まずは、目標とする大学に合格するための学力を身につけることです。高校入試と違い、大学入試で戦う相手は全国の進学校の生徒たちです。その生徒たちと戦って勝つためには今のうちから人よりも多く勉強することを習慣づけていかなければならないと思います。これからは普段から自発的に家庭学習に取り組むよう心がけていきます。

もう一つは、部活動で自分の役割をきちんと果たし、人間性を磨くことです。私はその明るい雰囲気と先輩方の優しくあたたかい人柄に憧れて、軟式野球部にマネージャーとして入部しました。目標である全国制覇を達成するべく、毎日汗だくで土まみれになりながら練習に取り組む選手たちの姿を見るうちに

「私はどうやったら力になれるのだろう」と強く思うようになりました。今はまだマネージャーとして未熟なのですが、いつかは頼りがいのあるマネージャーになりたいです。

また、私は部活動を通して礼儀正しく、気づかいのできる人になりたいです。以前、ある高校野球マンガを読んでいた「強いチームというのは、地元から愛され応援されるチームだ」と書いてありました。「地元から応援されるチームとは？」と考えると、やはり一番に頭に浮かぶのは礼儀正しいチームだということでした。選手はもちろん、マネージャーも率先して地域の方々にあいさつしたりと、常に周囲への感謝を忘れずに行動したいです。そしてたくさんの方々の支えを糧にして全国優勝し、その軟式野球部の活躍が、能代高校を、さらには能代を活気づけることにつながるなら素晴らしいと思います。

創立九十周年という記念の年を経て、3年後自分がレベルアップした姿で卒業できるように、そして、10年後、20年後には今以上に発展している能代高校の姿を見られるように、高校での3年間を大切に過ごしていきたいです。